

科学技術人材育成重点枠（高大接続）についての審査における主な指摘事項

千葉県立船橋高等学校

幹事校：千葉県立船橋高等学校

接続大学：千葉大学

参画校：千葉県立柏高等学校、千葉県立木更津高等学校、
千葉県立佐倉高等学校、千葉県立長生高等学校

- 大学側に、SSH事業による生徒の学習成果を入試に活用しようとする計画と、それを可能にするAO入試の実績があり、本事業に基づく入試の計画人数が、十分にインパクトのある想定となっている点や、本事業を将来、他の高校及び他の大学に拡大することが、十分に想定できる計画となっている点、幹事校が、本事業で開発しようとする入試を自校生徒の将来の大学受験の柱にしようとする意欲が感じられる点が非常に期待できる。
- ALTと研究指導員を各校に5年間継続して配置し、レベルの共通化を図ることは、目指している研究室環境と同じ環境なのかを検討していくことが必要である。特に、配置による効果検証は重要であり、生徒の主体性が阻害されないような工夫が必要である。
- 接続大学が積極的に関わることは重要であるが、高校の関与や意識が低下しないようにすることが必要である。課題研究への大学側の関与が非常に大きいように見受けられ、研究に対して大学教員側と高校生側の状況を考えると、高校生が主体性を発揮できる余地が少なくなる可能性がある。高校段階から大学入学後において、大学への丸投げにはならないようにすることが必要であり、これまでの各高校の基礎枠での取組で、主体性を重視した課題研究の経験と実績を最大限に生かしていくことが重要である。
- 1年目に実施される高校1年生対象の科学技術系人材発掘プログラムが基礎枠で行われる課題研究などとの関係性など詳細に計画されていないように見受けられる。初年度の高校1年生の取組が非常に重要であり、コンソーシアムで十分に議論して取組を推進することが望まれる。
- 経費においては、連携体制の構築に対しての経費が全体経費の大半として計上されているが、より効果的効率的な執行に努めることが必要である。